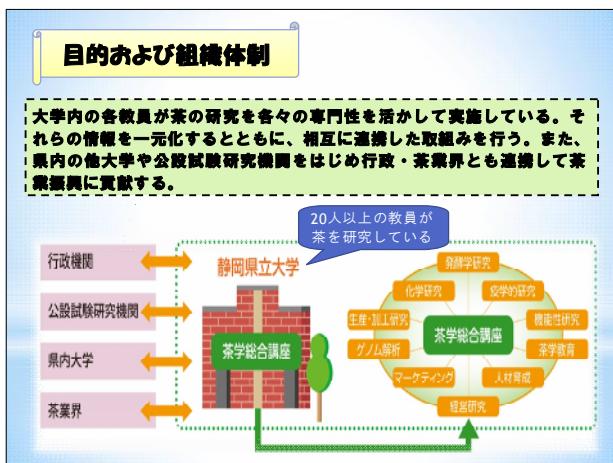
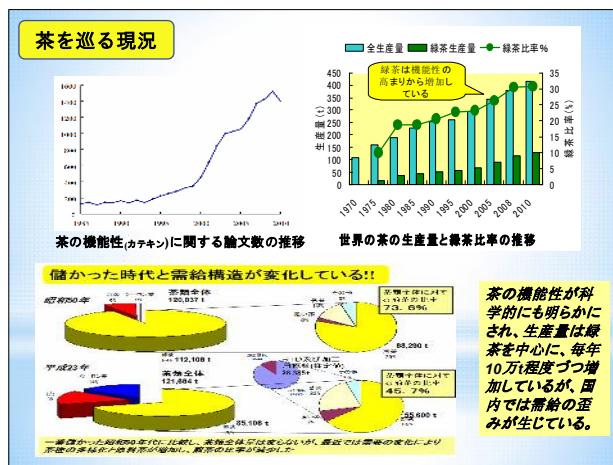


緑茶を好む人は多いが!! 飲用は少ない?!	お茶の潜在需要は高い	緑茶の飲用頻度	平成23年 インターネット アンケート結果 静岡、東京1000名
>緑茶を好む人は年代、性別を問わず約8割と非常に多い。 >しかしながら、急須で淹れる緑茶を毎日飲む人は、60代は約6割、40代は約4割、20代は2割程度と若い年代ほど緑茶の飲用頻度が低い。 >緑茶の飲用意識と飲用頻度にはギャップがあるが、若い年代も緑茶の潜在需要は			



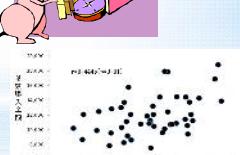
1. 緑茶の機能性及び疫学に関する研究

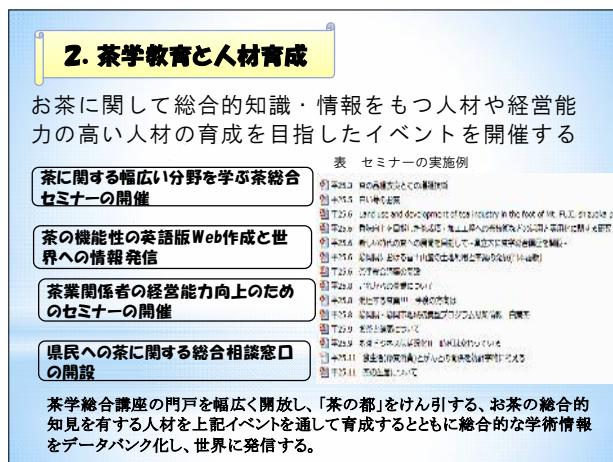
本県が「健康長寿日本一」であることと「緑茶飲用」との関連を機能性及び疫学面より調査し、科学的なエビデンスを明らかにする。

緑茶の抗ストレス性の解明

- ・緑茶成分、特にテアニンの抗ストレスに及ぼす影響を調査する
- ・白葉茶のヒト試験による抗ストレス作用を解明する

緑茶摂取量と各種疾病発生率との関連



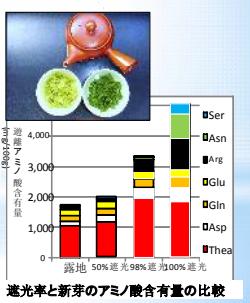
3. 茶葉及び茶飲料の嗜好特性の解析

本県各地の銘茶や新品種についてそれらの製法とともに商品としての完成度の向上、販売促進戦略などを支援する。

高アミノ酸含有白葉茶の最適溶出条件

白葉茶はアミノ酸含量が普通煎茶の2~3倍高い。アミノ酸の種類により溶出速度が異なるため「茶量」、「浸出時間」、「浸出液の温度」を組合せ、消費者が飲んで美味しいと感じる最高溶出条件を明らかにする。

	表 同一茶量の淹れ方による 浸出液濃度(mg/L)	アミノ酸 順位
白葉茶	1256 1133 745	1 2 3
煎茶	458 1020 664	4 5 6



4. 茶の高付加価値化とマーケティング

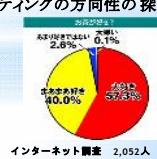
緑茶の高付加価値化とともに、「消費者が買いたくなるお茶」についての市場調査とその活用を図るなど緑茶のマーケティングの推進を支援する

大消費地の消費者を対象としたアンケートとその解析

- ・緑茶への顧客ニーズの把握および、潜在的ニーズの把握
- ・異業種の連携による価値創造の可能性の探索(茶×観光、茶×スイーツ、等)
- ・静岡駅、飲食店などをメディアとした茶産地マーケティングの方向性の探索

消費者の購買行動の解析

「消費者が買いたくなるお茶」。特に、店頭において手に取りたくなる要因(パッケージ、中味、値段等々)について、さまざまな階層の消費者を対象に調査を重ねる。



インターネット調査 2,052人

最後に(ホームページの開設)

The homepage features a green header with the university logo and the laboratory's name. Below the header is a large image of tea leaves. The main content area includes sections for 'Tea's practical applications from basic properties to sales and business methods' and 'Seminar PDF display'. A sidebar on the left shows a QR code and the URL: <http://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/labs/tsc/>.